

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	施設理念はあるが、地域密着型の運営理念は現在施設で検討中である。	○	地域に根づいた施設として、地域の活動・行事を通じて、地域と施設、地域と利用者の方が共に協力して生活できるような理念を作りたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	朝の申し送りの時に、継続して施設の理念を復唱し理念の確認と施設のケアのあり方を確認しながら日々のケアに努めている。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	基本理念は家族の方に分かるよう掲示を行なっているが地域の中で暮らし理念が作成中なので、家族・地域には伝えられていない。	○	地域理念の作成を急ぐと共に、再度広報誌やより分かりやすく理念を掲示していきたいと思う。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	外出や散歩などで、近隣の方にあつた際は職員や利用者の方から挨拶を行なっている。	○	今後は大型行事には地域の方に参加して頂けるように検討中。そこから継続的な関係を築いていきたいと思う。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	ようやく周辺地域に世帯が増えてきているが未だ自治会の発足に至っていない。その中でも、旧地区の公民館で活動されている方にボランティアで余興や利用者の方との活動を定期的に行なっている。	○	自治会が発足され次第、地域の一員に留まらず関係を深めるために、積極的な活動を進めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設拡大に伴い、地域に開かれた行事を行う計画になっている。 施設の現状や施設の特徴を知っていただき高齢者の方の暮らしを見て頂きたいよい機会を考えている。	○	行事だけでなく認知症高齢者の理解や認知症そのものの理解をして頂くために、地域に向けた勉強会を開いていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年初めて評価されることもあり管理者より自己・外部評価の意義の説明が行なわれたが短期間であったので不足な部分がある。	○	施設管理者と施設内の外部評価委員を通じて今回の評価を基に、再度説明を行なって頂きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域・民生委員・市役所・家族の代表及び施設長・管理者で1時間程度の会議を行っている。施設の現状や問題点を報告して意見を頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として施設長が代表で、所用を含め市役所に出向いて、福祉の現状や施設の報告は行っているが、職員が出向くことは少ない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々で差があるものの、制度の理解をしているが施設外の研修参加はしておらず、施設内研修も行なっていない状態である。	○	初期として、弁護士などの有識者を招いて施設内研修会を行って理解に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本的な虐待行動・発言については個々で理解し施設外研修も参加し、職員会議でも疑われる発言があれば全体として注意を行なっている。		さらに職員に研修会に参加していただき研修報告として、勉強会を開催して学んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設に入所される際、契約書兼重要事項説明書にて施設の利用方法や料金、事業所・利用者の方の権利などを口頭で説明を行い確認をして頂いている。不足・不明があれば必ず納得されるように説明をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者の方の不満等を伺い記録や申し送りにて報告を行っているが利用者の方の不満改善を行っても、納得が得られないこともある。	○ 不満の内容によるが、直ちに解決できることは申し送りの時点で対応を検討しているが外出や帰宅の要望などは会議にて検討を行い納得できるような対応を行っていききたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回広報誌を通して、その際には必ず、生活の様子や健康状態などの近況報告を行なっている。重要・緊急な内容については管理者等から電話にて迅速に報告がされている。	職員及び担当職員として、広報のみならず面会の時や定期的に連絡・報告を行いより深い信頼関係を築いていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にて苦情を受ける連絡先を記載しておりまた施設内の第三者苦情処理委員会にて受けた苦情に対するの検討会を開くように整備されている。	○ 信頼関係があれば、施設や職員に言える事も可能だが苦情を話すことは難しいと思うため玄関先に苦情の旨を伝えるための意見箱を設置や家族会を組織して家族の方の考えを傾聴して改善に努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議のみならず、管理者から、管理者に報告や悩みを定期的に話すことが出来ている。少しずつではあるが、反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	新しく入られる時や様々な状態にでも対応出来るよう管理者・主任が日勤でいるようなシフト体制になっておりまた夜間帯も、ベテランの職員が初日の様子を対応する様に勤務の調整を行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設拡大による大幅な異動がなされたが細かな引継ぎが行なわれ、中途での移動に関しても混乱がないように引継ぎと情報収集を行い利用者の方及び職員に混乱がないように対応されている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の掲示板により研修案内を確認することが可能で研修内容によっては施設長・管理者より指示を受けて研修参加を行なっているが年間を通じての計画性のある研修参加予定になっていない。	○ 個々でも研修に参加をしているが、施設で職員の意識向上も必要で、職員のスキルアップ・必要である人材と意識付ける為にも、個々のスキルを見て、年間計画で研修参加出来るよう提案していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修を通して他施設との交流の形を取ってはいるが、継続的なものではなく相互研修以外での交流が全くない。	○ スキルアップや互いの問題解決・気付きを踏まえて施設と掛け合い交流の機会を持っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者の方の重度化、夜勤1名体制で転倒・徘徊のリスクと背中合わせでの業務を行なっている。それらのストレスを少しでも軽減できるよう対策や予防の話し合いを行なったり、管理者は問題解決の迅速な対応や夜間の様子把握の為に様子を見ていただいている。	○ 利用者の方の重度化、夜勤1名体制で転倒・徘徊のリスクによるストレスを改善して頂けるよう夜間帯の体制見直しや離床センサーを早急に設置して対応して頂きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個別の評価を正しく評価するために現場での様子、問題点を把握するように努めて頂いている。個別の面談にて内側からの様子も把握されている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前は管理者・ケアマネが利用予定者へ出向いて身心状態の確認や雑談の中から利用予定者の気持ちや不安・困っていることを見つけ、聞き出すようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前は管理者・ケアマネが利用予定者へ出向きその後、家族(同席している場合はその時)に同じように不安・困っていることを伺い受け止めるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、当施設入所でも対応可能か利用予定者の状態で別のサービスが必要かを家族の方の意向をふまえて出来る限りの対応を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には利用者の方とご家族の方に見学に来て頂き両者とも納得して頂いた上で入所をされている。少しでも環境変化が軽減されるよう、なじみの家具・仏壇物品の持ち込みも依頼して行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所前アセスメントにより、利用者の方のおおよその状態生活歴・性格を把握に努め、入所されてからも長所を生かし家族のように温かい気持ちで常に接して関わりを持ちながら対応している。		対応困難時は管理者に相談をして家族の方に連絡を取って改善に努めている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の意向等を細かく伺い、また施設側からも相談を行ない、記録に残して情報共有に努め一緒に支援していく関係づくりを心がけている。		常に利用者の方一人ひとりの思いに添った一番の理解者となるよう傾聴し、共感しながら利用者の方と職員が支える関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方との関係を大切に、面会時には居室に案内したり、希望があればホールで一緒に過ごしたり気兼ねなく話せるような雰囲気を作っている。家族の方と本人がよりよい関係になるように配慮し支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方、知人・教え子の方々などの馴染みのある方に来て頂いている。利用者の方によっては家族や知人の方に電話をかけて頂いているが、やや面会は少なく、家に帰る(外泊など)支援が少ない。	○	家族の方に面会に来て頂けるよう依頼をしたりドライブなどで近所にいけるよう努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方同士の関係の中でトラブルは見受けられるが職員は個々の役割や相性・関係性を理解して仲介役となり良い関係が保たれるように支援している。		利用者の方の気持ちを大切にしながら孤立されないよう職員が寄り添いながら、他者との関係が円滑に楽しく生活できるよう支援を継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院をされた場合、管理者や職員は面会に行きまたそのまま退所されても面会や他施設転所先に伺い今までの馴染みの関係として継続的な関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中関わりや談笑の中で、本人の気持ちを伺いながら対応して、また困難な場合は、家族の方に相談をしながら、利用者の方の立場になって対応している。	○	その中でも外出部分が出来ていない。それを可能にするためにも、職員と家族の理解・協力を得ながら利用者本位を考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より書面にて家族の方に、生活歴や馴染みの関係趣味・嗜好を伺っており、日々の生活の中で生かせるよう心がけている。		家族や日々変化する利用者の方の心情を察して職員間でその情報を共有していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムや体調変化や不穏などの記録を取り利用者の方が有する能力を怠ることなく出来ることは積極的に行なっていただけるよう支援している。		生活の中で利用者の方自身のできることの支援して行くことにより、生活の意欲・楽しみを持って暮らして頂けるよう支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いを大切にしながら、家族の思いと日々一緒に生活する職員の意向も加えて反映させより質の高いケアになるよう介護計画を作成している。		利用者の方や家族の意見を聞いているが要望しにくいこともあると思うので、管理者に相談しながら職員の意向が偏らないように注意したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間、レベルの状況や特変に応じて適宜介護計画の変更を行なっている。	○	見落としや忘れがないよう、また特変だと感じたら管理者に相談・報告を行い、適切な介護計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や介護計画に沿った記録を行い双方を総合的に見て、期間内に介護計画の変更を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの利用者の方と1日過ごして頂く事もありコミュニケーションの一つとして刺激となっている。また隣接しているグループホームの方との交流もある。		今後はデイサービスの方が宿泊の場所として利用できるように支援を行なっていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や消防による訓練、高校生やボランティア活動の実践活動の場所として、地域資源を利用しながら利用者の方に楽しんでほりのある生活を支援している。	○	実践活動の場所としてだけではなく、実際に利用者の方が継続的に活動できる内容も取り入れながら地域とのつながりをさらに深めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個別に見ていくと専門的なリハビリが必要な方がおられるものの、その支援は行なえていない。	○	現在交渉中である。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネを主として、地域包括支援センターの方と特に地域包括支援センターからの相談による利用者の方は定期的に相談を行いながらケアマネジメントを行うようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方と家族の希望を伺いながら、一般的な内科については、2週間に1回往診対応で、施設のかかりつけ医で対応をしているが、希望であれば利用者の方の今までのかかりつけ医で対応している。		希望のある利用者の方や専門性が高い科についてはご家族の方にも内容を把握していただきたいためご家族の方が受診に行っていたらいい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>終末期に関わらず、年齢や利用者の方の状況を勘案して、かかりつけ医や家族の意向を伺いながら安心して過ごせるようにしたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>今後どの利用者の方でも考えられることであるので、事業所としてどこまで対応していくかを早急に検討し、その旨をかかりつけ医に報告して、合わせて指示を仰いでいきたいと思う。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>利用者の方の家族の意向を伺い、利用者の方の精神面に配慮しながら支援できるようにする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	地域性を考慮して方言を使っているが、利用者の方の誇りや大きな声での声かけをしないように心掛けている。日中の様子などを記録や個人情報も必要以上な過剰は表現をしないように注意を払っている。	利用者の方の気持ちを優先的に考え、職員側のアプローチを押し付けないよう、言葉や対応をさらに気をつけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の会話のなかで、利用者の方の思いや希望を伺いながら自己決定が出来るよう個々に合わせた声かけをおこない可能な範囲内で希望に沿った支援を行なっている。	○ 内容によっては、職員や施設側の方で決めてしまう事があるので、今まで以上に利用者の方の意思を尊重して改善できるよう・困難時は納得できるような方法を検討していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	働きかけの一つとして職員の都合で日課をして頂くことがあるが、利用者の方の状態を見ながら、本人の希望通り過ごされるよう努めている。	○ 利用者の方の常態や希望に合わせてその人らしい暮らしをして頂くことが出来るよう改善すべき点は検討して希望に沿った支援に努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の更衣や整容などは利用者の方の状態もあるがどの方も伺いながら対応を行っている。理美容に関しては、移動式美容室を利用しているが外泊・外出時、利用者の方の希望・こだわりがあれば家族の方に依頼して行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の盛り付けや片付けなど、食事の準備は出来ること出来る状態をみて、毎食後行なっている。調理・献立は合理化の為、別で調理職員が行なっているが、利用者の方の誕生日や調理の方が利用者の方に伺いながら可能な限り献立に意見を取り入れている。	○ 外食する機会や、おやつ作りから、作る喜びや楽しみを利用者の方が持ち、生活の活気になるよう継続した支援を行ないたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時の飲み物や、お茶を拒否される方がおられるので、利用者の方に伺い提供はしているがお酒やタバコなどの特殊な嗜好品については希望がないのもあるが提供は出来ていない。	嗜好品については、季節感によって行なっていけるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別に排泄パターンを把握して、定期的にトイレ誘導を行い、失禁がないように配慮している。 また、排泄中も自立で困難な方は本人の同意があるときは近くにおいて対応を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとで週3回の入浴を行い、希望があれば適宜もしくは毎日入浴をしているが、時間的には希望に沿えていない。	○	その時の入浴希望は行なえているが時間(夜)での希望に沿えていないので、一度傾聴して夜間入浴の希望があれば、対応出来るよう職員配置を検討して行いたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調や前夜の睡眠時間・傾眠が見られるなど様々なケースを考慮しながら、日中活動を行い利用者の方の昼寝や夜間睡眠を取れるように対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴・持っておられる能力を考慮して個別の役割や、趣味・特技を生かしながら日々の生活を楽しんでいる。		個々の趣味・特技が異なり、またそれらを嫌う利用者の方がおられるのもあり、一緒に行かないがたいこともあるが個別に楽しんでいただけるよう継続して行ないたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところ1名の方が自己管理はされているがそれ以外の方は行っていないが、利用者の方が買い物を希望された場合は、立替と言うかたちで、最小限であるが本人にお渡しをして、買い物に出かけている。	○	利用者の方の楽しみの一つとして買い物を継続して行ないたいので、金銭管理が個別に出来るよう検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体状況を考えると、希望に沿えないこともあるが天候も考慮しながら、出来る限り、散歩を中心に草むしりや外気浴が楽しめるように支援していきたい。	○	どちらかと言うと、本人希望より職員の声かけで出られることが多いので、希望を適宜伺いながら支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や遠足などの団体としての外出支援はあるが家やカラオケなどの個別の対応は限られた方のみである。	○	家族の方の意向で近所へ出向いて欲しくないということもあるので、家族の方の理解や利用者の方からの希望を適宜伺いながら外出できるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はなく、また電話を希望される方および電話をかけることが可能な方は少ない。 また手紙を書く支援は出来ていない。	○	日常支援及び機能維持と家族との関わり継続の視点から、早急に支援が出来るように進めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	広報誌にて定期的に面会に来ていただけるよう声をかけている。面会があればお茶や居心地がよい空間になるよう心掛けている。	○	家族の面会は1～2ヶ月にあるが知人や友人の方の面会が少ないので家族の方に依頼を行い利用者の方に関わる方に面会に来ていただけるよう支援していきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はどの職員も行なわないよう継続的に行なっている。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」に基づいての身体拘束の学習が不足であるので行ないたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の構造上、玄関を開錠しても把握できる環境にはあるが徘徊・離苑が多く、また居室の窓から出られるなどのリスクが多く見られたため、やむ終えず施錠をさせて頂いている。	○	玄関が開いているのは当然と考え、外の方へ出られても把握が出来るよう職員の意識付けを根源にどのような工夫をすればよいか検討を行いたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の方の状況を把握して昼夜定期的に巡回を行い、安全面に考慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の方の機能を見て、可能な方は本人に爪切りや所持している。 はさみや刃物は他の利用者の方にも影響するので預かりをさせて頂いている。		明らかな外傷が考えられるものは家族の方と利用者の方に相談して預かりを行なっている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各研修会には参加や看護師に相談して知識を得て、情報共有に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議等で利用者の方で起きうる事例を看護師の方から指導を定期的に行なっている。	○	施設にAEDを設置したのもあり、具体的に誤嚥や意識喪失時どうしたらよいかを行なっていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災・避難訓練は義務として年2回行なっているが施設内だけでの訓練のみとなっている。	○	運営推進委員会や自治会を經由して防災訓練の参加と協力を依頼し、またAEDの講習会を行ないたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々変わる身体状況を記録しながら、起こりうるリスクに対して、家族の方に精神的な負担をかけないよう管理者より説明を行ない、その中で家族の意向を伺い利用者の方が負担を感じないように話し合いを行なっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日ごろの状態を把握して身体面の観察を行い管理者や看護師に適宜報告を行い、体調不良や特変に対して早急に対応出来るようになっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加があれば必ず申し送りでの報告といつから変更になったかが分かるように記録を執っている。また副作用や禁忌などが分かるよう、薬情報をファイルして職員が閲覧できるようになっている。		服薬は利用者の方へ直接関わることなので服薬確認の徹底と副作用の理解をしっかりと行なっていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や毎朝の牛乳・ヨーグルトの摂取ご飯に寒天を入れ、なるべく便秘にならないよう食事の面を中心に対応を行なっている。		食事以外にも動くことで腸内活動を起こすように配慮しているがそれでも出ない場合に服薬で対応をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の方には本人にしてもらい、磨き忘れがないが見守りを行い、義歯を付けている方は本人に磨いていただき口腔内はイソジンでうがいをして清潔を保っている。	○	自立をされている方の対応が不十分と感じることもありプライドを考えながら対応出来るようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や心臓病による食事制限・食事と水分量また個々に合わせた食事形態を配慮して対応している。 お茶が嫌い。水分が嫌いという方もおられるので水分そのものも個別に対応している。	体調等でその日その日で食事・水分摂取が異なり著しい低摂取が続かないよう記録を執りながら脱水や低栄養にならないように努めていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	複数の感染に対するマニュアルが作成されておりそれぞれどのように対応すればよいか把握できるようになっている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	施設拡大による調理の合理化の為、直接作っていない。 台所はアルコールで衛星保持に努めておりまた食器類は必ず食洗機洗浄や高温乾燥を行い衛星保持を行なっている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関近くには中庭があり利用者の方と季節にあった花を植えたり、玄関にも観葉植物を置いて明るく親しみやすい環境となっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、利用者の方からの不快が見られれば、それらを考慮して対応を行なっている。 食堂は外の景観もよく、若干光が入りやすい環境であるがまぶしさなどは考慮し、季節行事を中心に生活観があふれる環境となっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には1ヶ所ベンチが設けてあり居室や食堂以外に利用者の方が自由に利用して談笑されておられる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間をなるべく在宅と同様にして環境変化へのとまどいを少なくするよう努め、利用者の方によっては仏壇や家具を設置しておられ、一日でも早く生活が慣れられるように対応している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設内は24時間空調管理がなされており温度の管理は出来ないが、不快な臭いが漂うわないよう換気できるようになっている。 温度調節はエアコンのみで、利用者の方に伺いながら適宜コントロールを行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設内のほとんどがバリアフリーになっており廊下は利用者の方が使いやすい位置に手摺が設けられ安全で自立した生活を送れるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の認知能力に応じた声かけや説明を行ない残存能力を活かして可能な限り自立した生活を送れるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設周辺の環境は公共的にも整えてあり施設としても棟の裏庭や玄関のベンチでくつろげる場所があり 中庭には畑を作って周辺環境を活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年11月に開所し、新築の特性や緑が多く、近くに公園があり、施設を含め周辺環境は落ち着いた環境にあり環境を生かした穏やかな生活と、利用者の方、相互のコミュニケーションを重視した共同生活を営めるようにケアを努めている。